

## 年報

著者	共立女子大学博物館
雑誌名	共立女子大学博物館 年報/ 紀要
巻	2
ページ	3-14
発行年	2019-03
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1087/00003284/">http://id.nii.ac.jp/1087/00003284/</a>



## ご挨拶

明治19年（1886）の創立以来、すでに130年余の歴史を積み重ねている共立女子大学には、長年にわたって収集されてきた日本と西洋の服飾品やその他の工芸品、美術品が多数収蔵されています。これらは長らく学生のための教育資料として、また教員の研究資料として幅広く活用されてきましたが、他館への貸し出しなどを通じて、本学コレクションの存在が社会に認知されるとともに、その全面的な公開が望まれていました。

こうした状況のもとで、2016年10月、大学の創立130周年を記念して、新2号館が建設されたのを機に、その地階に共立女子大学博物館が新設されました。

博物館の収蔵品の中心をなすのは、日本の服飾・染織資料であり、帯を含む江戸時代から昭和時代初期にかけての女性の小袖・着物類は、質量ともに全国的なレベルにあるものといえます。

また公家・武家・庶民の男性服飾、大名家伝来の婚礼調度類や室町・桃山時代の漆工品も充実しています。さらに、アイヌや琉球などの民族服飾のほか、大正・昭和時代初期の本学教員・在校生による刺繍作品なども、これらに研究上非常に重要な作品群です。

収蔵品には、これら日本の染織・服飾品以外に、イタリアのデザイナー、マリアーノ・フォルチュニがデザインしたドレスを中心とする、近世・近代ヨーロッパの服飾類や、版画、アール・ヌーボーのガラス器、アメリカンキルトなど、西洋美術の多様な作品も含まれています。

共立女子大学博物館は、「和と洋が会う博物館」として、所蔵するこうした文化財を常設展示するとともに、特別展の企画や、講演・ワークショップなどの関連事業を通して、皆様に和と洋の文化の歴史と美に触れていただいています。

開館2年目の2017年度からは、これら様々な活動についての報告を行う年報とともに、本学所蔵の文化財やこれに関連する作品や様式に関する研究、及び文化財の保存・修復に関する研究などの成果を発表する紀要を合わせ、『共立女子大学博物館年報／紀要』を刊行しています。

今後も、本誌が博物館における展示活動・社会教育活動と連動して、社会に大きな貢献ができるよう努力していきたいと考えています。

共立女子大学博物館長  
長崎 巖



# 1. 展示関連

## 1. 和と洋が会える博物館 共立女子大学コレクション・3 <コレクション展>

2018年3月14日(水)～5月11日(金) 40日間 入館者数：485名

### 【概要】

明治19年(1886)の創立以来、すでに130年の歴史を重ねている共立女子学園には、長年にわたって収集されてきた日本と西洋の服飾品や工芸品、美術品が多数収蔵されています。

本学博物館では、ある1つのテーマを設けて展示を行う「企画展」と本展のように本学の多様な収蔵品を紹介する「コレクション展」の2種類の展示を交互に行っています。

「コレクション展」では、当館の特色でもある「和」と「洋」の文化の歴史と美の世界をお楽しみいただけるよう、これまで公開していない作品を中心に、本学の美術資料を順次公開して参りました。

本展では、アメリカンアンティークキルトと江戸時代の小袖を展示し、時空を超えた多彩なコレクションをお楽しみいただきました。



ポスターデザイン：山崎 結希

(家政学部 建築・デザイン学科デザインコース)



展示風景

## 2. きもので夏を楽しむ 展

<企画展>

2018年6月13日(水)～7月31日(火) 45日間 入館者数: 821名

### 【概要】

本展は、江戸時代から昭和時代初期の夏衣装をテーマに、日本女性たちが着物にどのような工夫を凝らして涼しさを演出し、夏を楽しんでいたのかについてご紹介いたしました。

江戸時代の作品では、武家女性・公家女性の着用していた絹縮や麻の小袖。明治時代から昭和時代初期にかけての近代の作品では、主に一般女性が着用した着物を中心に展示しました。また、子どもが着用していた愛らしい夏の着物、着物を彩った櫛や簪などの装飾品も合わせて展示しました。

### 【関連事業】

#### ・講演会

「夏のきもの - 日本女性はきもので夏をどう楽しんだか -」

講師: 長崎 巖 (共立女子大学博物館長)

日時: 6月23日(土) 14:00～15:30

来場者: 57名

#### ・ギャラリートーク

講師: 川井 結花子 (当館学芸員)

日時: 7月6日(金) 12:30～

7月24日(火) 12:30～



ポスターデザイン: 間嶋 みのり

(家政学部 建築・デザイン学科デザインコース)



6月23日(土) 講演会

展示関連



### 3. 和と洋が会える博物館 共立女子大学コレクション・4

<コレクション展>

2018年10月1日(月)～11月21日(水) 36日間 入館者数：470名

#### 【概要】

本展は、当館のテーマである「和」と「洋」が会える美の世界を本学の主要なコレクションにてご紹介する展覧会です。

「和」の世界では、江戸時代から明治時代の武家・町人の男性が着用していた服飾について紹介いたしました。また、当館では初となる刀剣と甲冑の展示を行い、武家服飾の放つ勇壮な世界と、町人服飾の粋な世界の違いを展示いたしました。

「洋」の世界では、ドレスの襟や袖口などを飾るレース作品や19世紀に流行したビーズで製作されたバックを中心に展示いたしました。このほかに、植物をモチーフとしたデザイン画を展示し、西洋を彩った繊細で華やかな世界をご紹介しました。



ポスターデザイン：山崎 結希

(家政学部 建築・デザイン学科デザインコース)



展示風景

## 4. 染 – 人の手が創る美 – 展

<企画展>

2018年12月13日（木）～2019年2月6日（水） 38日間 入館者数：539名

### 【概要】

日本の染めの歴史は古代からはじまり、人々の手によって変化と多様性を生み出してきました。植物の葉や花卉を布地に擦りつけ色をうつしていた原始的な時代から、植物から抽出した染液で布に色を染めるようになり、最終的には絵画のように自由に布に模様を染め出すことが可能になりました。日本の染色技術は、長い歴史の中で育まれた職人の経験や知恵が継承され育まれてきました。

本展では、日本の代表的な染色技法である絞り染・型染・友禅染などの作品を中心に、近世から近代にかけての長い歴史の中で積み重ねられてきた、染色品のもつ多様な美しさをご紹介します。

### 【関連事業】

#### ・講演会

「無形文化財の視点から見る染織工芸技術について」

講師：菊池 理予 氏

日時：1月26日（土）14：00～15：30

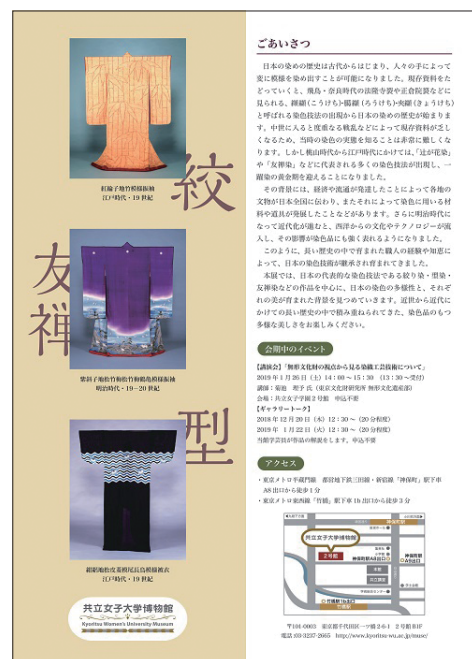
来場者：32名

#### ・ギャラリートーク

講師：川井 結花子（当館学芸員）

日時：2018年12月20日（木）12：30～

2019年1月22日（火）12：30～



ポスターデザイン：東條 美海

（家政学部 建築・デザイン学科デザインコース）



1月26日（土）講演会

展示関連

## 2. 沿革

平成 27 (2015) 年 4 月 1 日 博物館プロジェクト設置  
平成 28 (2016) 年 10 月 1 日 開館  
10 月 8 日 開館記念展開会式・特別内覧会  
平成 29 (2017) 年 7 月 31 日 博物館相当施設指定

## 3. 入館者数

展覧会名	学外			小計	学内			小計	合計	会期 (日数)
	一般	学生	卒業生		教職員	大学生	中高生			
【コレクション展】 共立女子大学コレクション・3	225	22	40	287	65	118	15	198	485	2018. 3. 14～ 2018. 5. 11 (40日)
【企画展】 きもので夏を楽しむ	514	60	111	685	53	82	1	136	821	2018. 6. 13～ 2018. 7. 31 (45日)
【コレクション展】 共立女子大学コレクション・4	230	23	55	308	32	121	9	162	470	2018. 10. 1～ 2018. 11. 21 (36日)
【企画展】 染 一人の手が創る美	290	18	26	334	39	166	0	205	539	2018. 12. 13～ 2019. 2. 6 (38日)
合計	1,259	123	232	1,614	189	487	25	701	2,315	開館日数計 (159日)

単位:人



## 4. 教育研究・利用支援

### 1) 特別・貸出・団体利用

#### 【特別利用】

NO.	申請者	利用区分	利用資料	利用開始日
1	家政学部被服学科 田中淑江	撮影	桃山時代刺繍裂(産衣)3点 他2点	2018/5/28
2	公益財団法人 三徳庵	画像利用	「水浅葱麻地鶴飼模様帷子」	2018/4/26
3	三菱一号館美術館/毎日新聞社	画像利用	「デルフォス」他 全10点	2018/6/1
4	株式会社 ハースト婦人画報社	画像利用	「水浅葱麻地鶴飼模様帷子」	2018/4/25
5	株式会社 ハースト婦人画報社	画像利用	「紺地中格子模様熨斗目」	2018/5/3
6	株式会社 染織新報社	画像利用	「水浅葱麻地鶴飼模様帷子」他 全2点	2018/6/30
7	三菱一号館美術館/毎日新聞社	画像利用	「デルフォス」全2点	2018/8/1
8	株式会社 コギト	画像利用	「ルイ16世様式金縁椅子セット」他 全5点	2018/9/18
9	一般社団法人 櫻友会	画像利用	「花丸模様櫛」他 全2点	2018/11/8
10	家政学部被服学科 田中淑江	熟覧	桃山時代刺繍裂(産衣)3点	2018/11/12
11	家政学部被服学科 長崎巖	画像利用	「紅練緯地草花霞模様肩裾四つ身振袖」全4点	2018/11/30
12	総合文化研究所 木戸雅子	画像利用	「フォルチュニイ・テキスタイル」他 全2点	2018/12/6
13	株式会社 ネクスス	画像利用	「昭憲皇太后着用大礼服」	2019/1/7
14	株式会社 ハースト婦人画報社	画像利用	「黒縮緬地薬玉御簾模様振袖」他 全2点	2018/12/13
15	京都産業大学日本文化研究所	画像利用	「昭憲皇太后着用大礼服」	2018/12/7
16	文芸学部 菊地絢子	画像利用	「源氏物語貼交屏風」	2018/12/7
17	はたや記念館ゆめおーれ勝山	画像利用	「デルフォス」全2点	2019/1/7
18	家政学研究科 藤井裕子	画像利用	「白地草花模様錦帯」	2018/12/28
19	公益財団法人 三徳庵	画像利用	「紺木綿地雪持笹紋六尺看板」	2019/1/15
20	公益財団法人 三徳庵	画像利用	「紅練緯地草花霞模様肩裾四つ身振袖」	2019/2/12

## 【資料貸出】

NO.	資料名	貸出先	貸出期間
1	「紺木綿縮地松葉模様浴衣」他 全6点	島根県立石見美術館	2018/6/26～9/10 <sup>※1</sup>
2	「昭憲皇太后着用大礼服」	秋田市立千秋美術館	2018/6/26～9/11 <sup>※2</sup>

※1「ゆかた 浴衣 YUKATA」展

※2「華ひらく皇室文化展 ―明治宮廷を彩った技と美―」展

## 【団体利用】

NO.	利用日	利用者名(授業名等)	人数
1	2018/5/2	博物館実習-02	4
2	2018/5/3	服装史特論	3
3	2018/10/11	染織品保存修復実習	16
4	2018/11/5	テキスタイルズ・オブ・ジャパン	25
5	2018/11/14	町田国際版画美術館友の会	19
6	2018/12/19	図書館制度・経営論	43
7	2018/12/21	博物館展示論	53
8	2018/12/21	博物館実習	22

## 2) 博物館実習

実習人数 26 名

実習日程 7 日 八王子キャンパス 2 日 2 グループ (6/26～27・6/28～29)  
神田キャンパス 5 日 6 グループ (10/1～10/5・10/8～10/12・11/5～11/9  
11/12～11/16・11/19～11/23・11/26～11/30)

### 【八王子キャンパス】

第一日目	午前	オリエンテーション 資料保存の保存管理に関するレクチャー
	午後	資料保存の保存管理の実習① 収蔵庫内の清掃
第二日目	午前	資料保存の保存管理の実習② 資料整理、取扱いの実務
	午後	資料保存の保存管理の実習③ 資料整理、取扱いの実務

### 【神田キャンパス】

第一日目	午前	オリエンテーション 実習のねらい、日程説明、館の概要説明
	午後	施設・設備についての実習 施設・設備の見学と課題の検討(利用者動線、バックヤード、空調、セキュリティなど)
第二日目	午前	展示に関する実習① 展覧会について(展覧会の意義、広報物等の制作について)
	午後	展示に関する実習② 利用者の動向、展示の手法、展示の課題の検討
第三日目	午前	管理業務に関する実習① 博物館資料の管理(作品の貸借について)
	午後	管理業務に関する実習① 資料情報の管理について
第四日目	午前	資料の取り扱いに関する実習① 資料の取扱演習、梱包方法に関する演習
	午後	資料の取り扱いに関する実習② 資料の観察、計測、調書の作成、データの入力の実務
第五日目	午前	収蔵品の展示に関する実習① 展示計画演習(レクチャー、資料の選定、制作)
	午後	収蔵品の展示に関する実習② 展示計画演習(制作・発表)



## 5. 運営・組織

### 1) 博物館規程類

#### 共立女子大学博物館規程

(趣旨)

第1条 この規程は、共立女子大学博物館（以下「博物館」という。）に関する基本事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 博物館は、本学における教育研究等の使命を達成するため、必要な学術資料および関連資料（以下「資料」という。）の収集、管理、展示等を行い、教職員、学生およびその他一般の利用に供することを目的とする。

(事業)

第3条 博物館は、その目的を達成するため次の事業を行う。

- (1) 資料の収集、管理および調査研究
- (2) 展覧会、講演会等の開催
- (3) 学内外の教育研究および利用に関する支援
- (4) 出版広報活動
- (5) その他博物館の目的達成のために必要な事業

(館長)

第4条 博物館に館長を置く。

- 2 館長は、教授のうちから学長が推薦し、理事長が任命する。
- 3 館長は、館務を掌理する。
- 4 館長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、任期中に退任した場合の後任者の任期は、その残任期間とする。

(運営委員会)

第5条 博物館運営の基本事項に関して館長の諮問に応じるため、博物館運営委員会を置く。

- 2 博物館運営委員会の規程は、別に定める。

(職員)

第6条 博物館に職員を置く。

- 2 職員のうち1名は、学芸員資格とそれに基づく実務経験を有する者とする。
- 3 職員について必要な事項は、共立女子学園事務局事務規程をもって別に定める。

(雑則)

第7条 この規程に定めるもののほか、博物館の運営に必要な事項については別に定める。

(改廃)

第8条 この規程の改廃は、館長の提議により常務理事会の承認を得るものとする。

附則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

#### 共立女子大学博物館運営委員会規程

(目的)

第1条 この規程は、共立女子大学博物館規程の第5条第2項に基づき、共立女子大学博物館運営委員会（以下「委員会」という。）に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(組織)

第2条 委員会は、次の運営委員（以下「委員」という。）をもって組織する。

- (1) 館長
  - (2) 学部・科より推薦された専任の教員 各1名
  - (3) 館長が必要に応じて推薦した専任の教員 2名以内
  - (4) 図書課統括課長
- 2 委員は、学長が任命する。

(任期)

第3条 委員の任期は、2年とし再任を妨げない。ただし、委員の欠員により補充された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、館長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、議長となる。
- 3 委員長は、必要に応じ、委員以外の者に会議への出席を求めることができる。

(会議)

第5条 委員会は、原則として年2回以上開催するものとする。

- 2 委員会は、委員の過半数の出席により成立する。

(議事の報告)

第6条 館長は、協議された事項について学長に報告する。

(事務)

第7条 委員会の事務は、図書課が担当する。

(改廃)

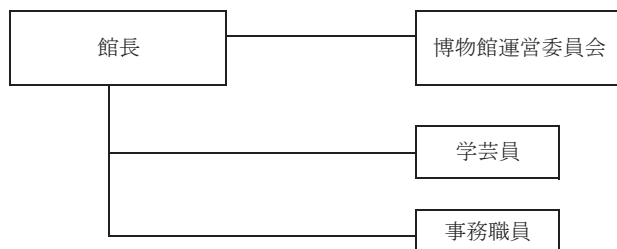
第8条 この規程の改廃は、館長の提議により、常務理事会の承認を得るものとする。

附則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

## 2) 委員会等・組織図

### 【組織図】



### 【博物館運営委員】

(任期 2年 : 2018年4月1日～2020年3月31日)

委員長	博物館長	教授	長崎 巖
委員	家政学部	教授	田中 淑江
委員	文芸学部	教授	池上 公平
委員	国際学部	教授	木戸 雅子
委員	看護学部	専任講師	山住 康恵
委員	生活科学科	教授	渡辺 明日香
委員	文科	准教授	C.A.ピッツ
委員	図書課	統括課長	田中 俊介

## 6. 展示環境

### 1) 環境調査

調査対象：神田一ツ橋キャンパス 2号館博物館

八王子キャンパス 10号館保管庫

調査期間：前期) 2018年 5月16日(水)～6月20日(水) 35日間

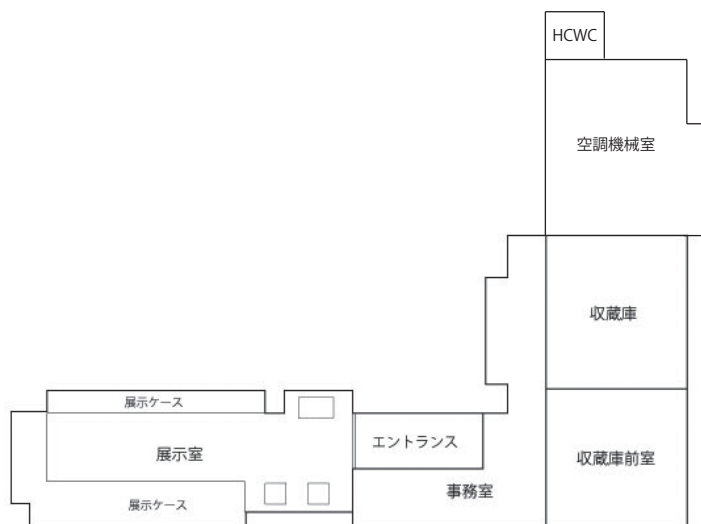
後期) 2018年 10月26日(金)～11月28日(水) 33日間

調査業者：東化研株式会社

### 2) 施設概要

室名	
展示室	(展示室) 48m <sup>2</sup>
	(展示ケース) 31m <sup>2</sup>
エントランス	13m <sup>2</sup>
事務室	43m <sup>2</sup>
事務室通路	
収蔵庫	36m <sup>2</sup>
収蔵庫前室	35m <sup>2</sup>
空調機械室	58m <sup>2</sup>
HCWC	6m <sup>2</sup>

博物館エリア 合計面積 270m<sup>2</sup>



竣工 2016年10月1日  
 設計 株式会社 山下設計  
 施工 鹿島建設 株式会社 (建築工事)  
 株式会社 関電工 (電気設備工事)  
 三建設備工業 株式会社  
 (空調・衛生設備工事)

## 7. 利用案内

開館時間：月～金曜日 9：30～16：30

休館日：土曜日・日曜日・国民の祝日、本学が定める休日、展示入替期間

※企画展開催中は土曜日も開館（9：30～12：00）します。

休館日、開館時間に変更になる場合があります。

詳しくは、当館のウェブサイトをご覧ください。

入館料：無料

※どなたでもご観覧いただけます。2号館1F受付でお申し込みください。

交通：東京メトロ半蔵門線・都営地下鉄三田線・都営地下鉄新宿線「神保町」駅下車  
A8出口徒歩1分

東京メトロ東西線「竹橋」駅下車1b出口徒歩3分

※駐車場はございませんので公共交通機関をご利用ください。

所在地：〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-6-1 共立女子学園2号館B1F

T e l：03-3237-2665

F a x：03-3237-2633

ウェブサイト：<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/muse/>

m a i l：muse.gr@kyoritsu-wu.ac.jp

